

「キウイフルーツで笑顔に」

春日部市 大晴農園 梨栽培から転換、こだわりの土でおいしく

【埼玉】春日部市の大晴農園代表の斎藤寛雄さん(75)は、家族とともに、キウイフルーツを生産している。同農園のキウイフルーツは、市の農

業祭農産物品評会で県知事賞を受賞。ふるさと納税の返礼品にも使われている。農園の周辺は梨の産地でかつては梨を栽培していたが、より作業効率の良いキウイフルーツ栽培に2017年から切り替えた。もみ殻や鶏ふん、おからを使った自家製たい肥に加え、土壌分析をもとに、不足している養分を施肥してバランスの取れた土づくりを行っている。

栽培品種は、甘みと酸みのバランスが良い「ヘイワード」を中心に、フルーティーな香りと甘みの「レインボーレッド」、香り豊かで濃厚な味わいの「香緑」など5種類。庭先販売と贈答用として全国発送も行っている。

人気商品は、複数の品種をセットにして販売する「おまかせセット」。寛雄さんは「果肉の色や甘さ、酸みのバランスや香りも品種によってさまざま。食べ比べをして楽しんでほしい」と話す。

ホームページでPR 義理の娘の佐知子さんは、県が開く農業女子キャリアアップ講座を受け、消費者に与えるイメージの重要性を感じ、しやれた農園ロゴマークを作った。キウイフルーツの切り口をあしらったデザインは、「キウイフルーツが皆の笑顔につながるように」という思いが込められている。

直売所では、キウイフルーツをもっと身近に感じてほしいと、佐知子さん自身がキウイフルーツのグッズを身につけ、商品を紹介している。他にも、四季折々のキウイフルーツの生育の様子などを伝える「キウイだよ」をホームページに掲載。日頃から細やかな栽培管理に努め、おいしいキウイフルーツづくりを追求している。

「キウイフルーツでつながる人の輪を大事にしたい」という佐知子さん。今後について「これからも真心こめてキウイフルーツを作っていく。直売所を充実させたり、お客さまを笑顔にすることを考えていきたい」と笑顔で話してくれた。



大晴農園の斎藤寛雄さん(中央)と妻の三枝さん(右)、佐知子さん